

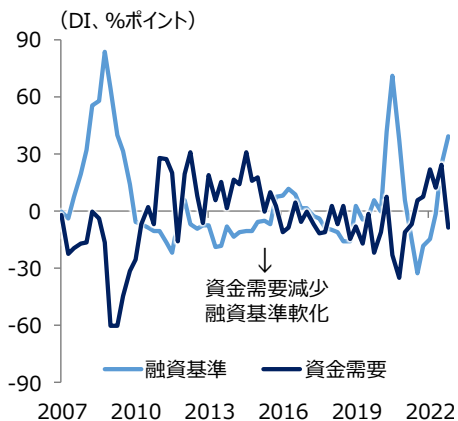
米国

銀行融資担当者調査（2022年7-9月期）

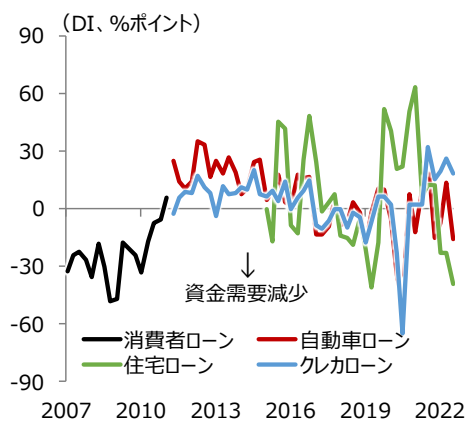
金利上昇が続くなか、企業の資金需要が6四半期ぶりに減少

政策・経済センター
田中嵩大
03-6858-2717

1 商工業ローン需要・融資基準

注：大・中企業向けの商工業ローン。
出所：FRB "Senior Loan Officer Survey"

2 消費者ローン需要

注：住宅ローンは、GSE（政府関連機関）適格モーゲージ。
出所：FRB "Senior Loan Officer Survey"

評価ポイント

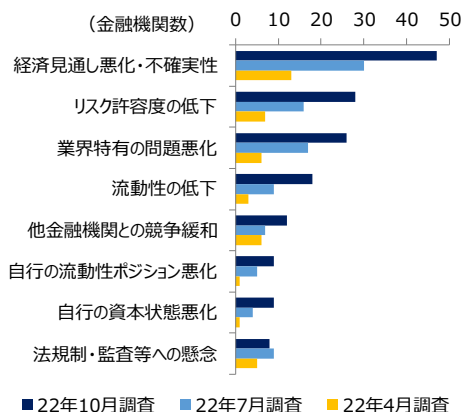
今回の結果

- 大・中企業向け商工業ローンの融資基準は22年第3四半期にさらに厳格化され、企業の資金需要は6四半期ぶりに低下へと転じた（図表1）。
- 消費者向けローンでは、金利の上昇を受けて住宅ローン需要の減少が続いたほか、自動車ローンも弱含んだ。一方で、クレジットカードローン（以降、「クレカローン」という）は引き続き需要が拡大している（図表2）。
- また、銀行融資担当者の多くは今後12カ月間の景気後退確率を40%以上と回答し、その程度は軽度から中程度とした。

基調判断と今後の流れ

- 利上げの影響や景気後退懸念によって、企業・個人の資金需要や資金調達環境は悪化している。
- 特に、住宅ローンや自動車ローンは需要減少幅が大きく、金利の上昇が購入意欲を阻害する要因となっている。また、これまで堅調であった企業の資金需要も低下している。工場や設備への投資意欲が減少しているほか、売掛金やM&A向けの資金調達が減少していることが背景として指摘されている。
- 先行きは、企業向け・消費者向け共に融資基準はさらに厳格化するだろう。融資厳格化の理由として一番多いのが、「経済見通しの悪化・不確実性の高まり」となっており（図表3）、今後金融引き締めによって景気悪化が明確となるなか、一層の厳格化が予想される。実際、景気後退となった場合には、約7割の銀行が融資基準をさらに厳格化すると回答している。
- 需要面では、企業ではDX投資などが下支え要因となる。しかし、全体としては景気悪化に伴って資金需要も低下しよう。また、消費者ではクレカローンの利用が、物価高のなかでも堅調な消費を下支えしている。しかし、既にローン金利は94年の統計開始以降最高水準にある（図表4）。家計の財務状況の悪化が見込まれる中で、金利のさらなる上昇や融資基準が厳格化すれば、ローンを利用できなくなり、米国経済の屋台骨である消費が下押しされかねない。

3 融資基準厳格化の理由

注：「多いに影響」ある程度影響」と回答した金融機関数
出所：FRB "Senior Loan Officer Survey"

4 クレカローン金利と家計財務状況

注：クレカローン金利は利息が発生する商業講座銀行口座（accounts assessed interest）を対象。
出所：FRB、シガン大学より三菱総合研究所作成